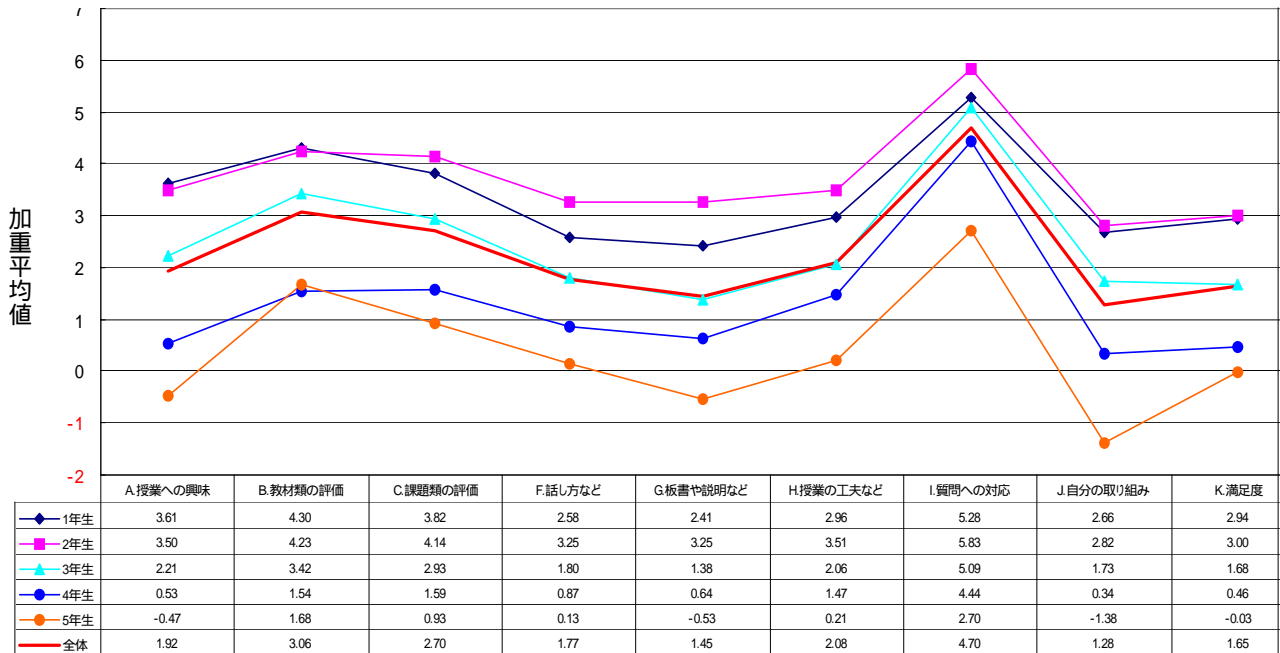


KTC授業アンケート調査結果より抜粋

学年別の授業評価比較



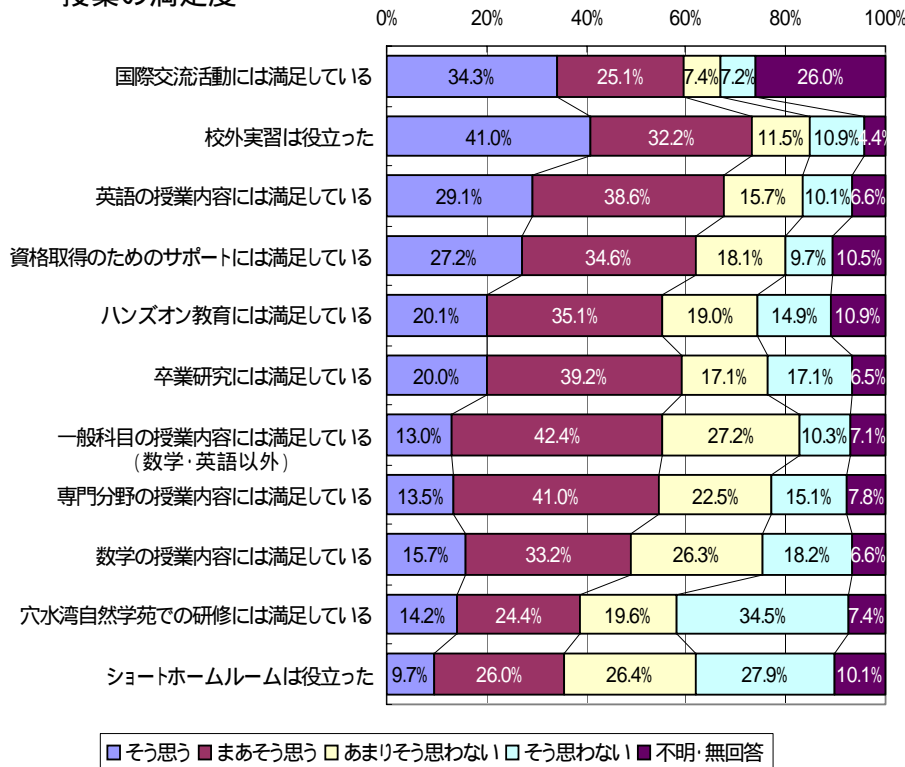
全体平均である太線を見ると、「I.質問への対応」「B.教材類の評価」「C.課題類の評価」などの得点が高く、「J.自分の取り組み」「G.板書や説明など」が低い傾向が見られた。これらを見ると、教員の授業の進め方にはそれほど大きな不満はないが、自分自身が積極的に取り組めていないという状況がうかがえる。

学年で見ると2年生の評価が高い点が目につく。「A.授業への興味」と「B.教材類の評価」は1年生がわずかに高かったが、その他の項目では2年生が上回っていた。いずれにしても1年生と2年生は授業に興味を持ち、積極的に取り組んでおり、満足度も高いといえる。

しかし、3年生以降にどんどん評価が下がっており、3年生からの動機付けの重要さが感じられる結果となっていた。

特に5年生の評価が低く、「K.満足度」を始めとして、「A.授業への興味」「G.板書や説明など」「J.自分の取り組み」がマイナスであった。特に「J.自分の取り組み」に関する課題が大きく、「高学年でも積極的に取り組めるカリキュラムづくり」などが今後のテーマになるものと思われる。

授業の満足度

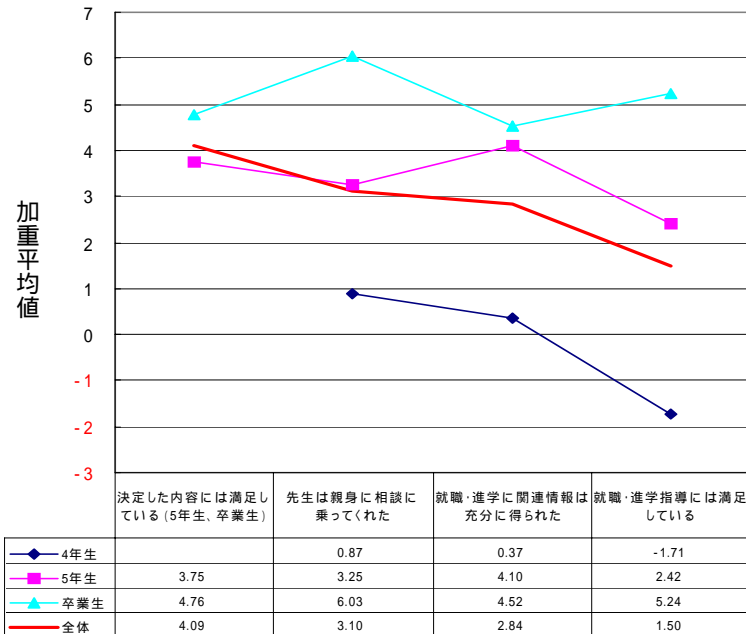


授業の分野別の評価を在學生と卒業生、教員に聞いたが、全体の評価を加重平均で比較すると下記のように「国際交流活動」が最も評価が高かった。ただし、非利用者と思われる「不明・無回答」が26.0%と1/4を占めており、これを考慮すると「非利用者が多いため、全体から評価が高いわけではなく利用者からの評価は高かった」と見るのが正しいといえる。

次いで、4年生以降が該当する「校外学習」の評価が高く、41.0%は「役に立った」と感じていた。そして、「英語」「資格取得サポート」などが比較的高いグループであり、「ハンズオン」「卒業研究」「数学・英語以外の一般科目(以下、一般科目)」「専門分野」「数学」などが評価が中間のグループであった。

逆に評価の低かったグループは「ショートホームルーム」「穴水湾自然学苑での研修」などであり、この2つに関しては加重平均で残念ながらマイナスとなっており、良くないと評価している割合の方が多かったといえる。

就職・進学指導に対する評価比較



学年によって就職・進学指導の評価を比較すると、一般的に卒業生の評価が高い点が目立った。特に先生が親身に相談に乗ってくれたと感じているようであり、最終的に就職・進学指導に対して大いに満足していることが確認できた。

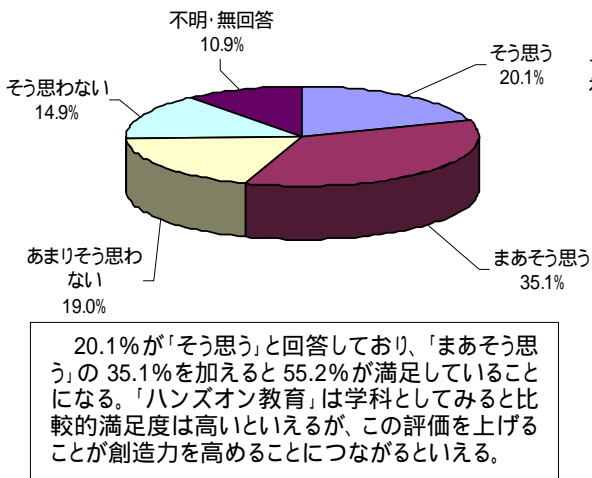
また、5年生のスコアも全てプラスであり、満足度も比較的高いことが確認できる。卒業生は一部の回答であり好意的な意見が多いのは当然と考えられるが、5年生が全員の回答であることを考えると、この評価はかなり高いといえると思われる。

4年生は他の学年と比較すると満足度は低めであったが、“活動前”であり不安などが回答に影響しているものと思われる。

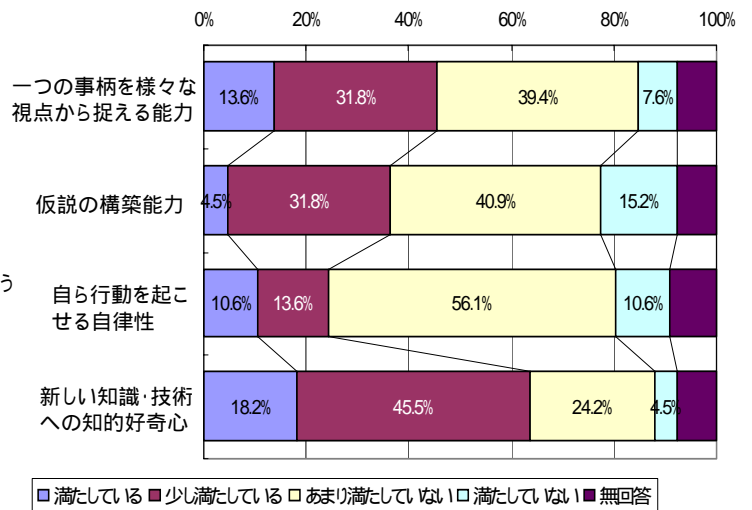
「卒業生の能力」の中で「創造力」に関係すると思われる項目の4つをピックアップした。これをみると「知的好奇心」があるという回答は63.7%と多めであったが、「仮説構築能力」「自律性」などが低めであり、「自ら行動を起こし創造的な仮説を構築する」といった分野の能力開発が必要になるものと思われる。

創造力を高める教育に関して

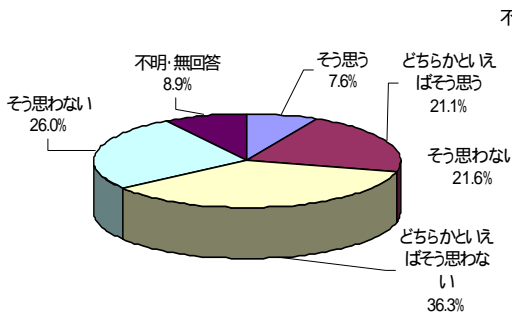
ハンズオン教育には満足している



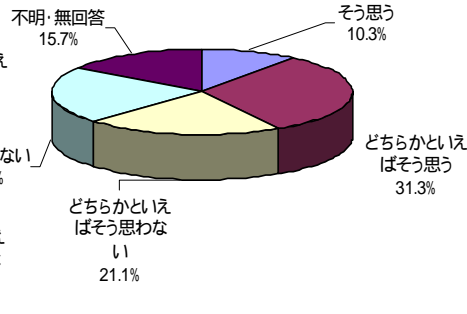
創造性に関する卒業生の自己評価(回答は卒業生のみ)



自己実現を助ける教育に関して  
自分は目標を持って学生生活を過ごしている



金沢高専で学ぶことで  
自分の目標に近づいている



自己実現を助ける教育を考える際、まず、学生に目標を発見させることが優先される事柄であり、このような点で改善の余地がうかがえる結果であった。

「目標を持って学生生活を過ごしているかどうか」に関しては、「そう思う」が7.6%、「どちらかといえばそう思う」が21.1%であり、合わせても28.7%にとどまっており、目標を持って過ごしている学生は多いとはいえない内容であった。

また、「金沢高専で学ぶことで自分の目標に近づいている」という質問に関しては、「そう思う」が10.3%、「どちらかといえばそう思う」が31.3%であり、こちらは合わせて41.6%が目標に近づいていると回答していた。